

CDP 気候変動質問書(簡易版)

CDP Worldwide-Japan

2023年5月



本資料は2023年3月末時点の情報に基づいて作成しています。

回答やスコアの取扱い、スコアリングの方針・手法について、2023年度以降変更がある可能性があることをご了承ください。



CDP 気候変動質問書(簡易版) 概要・構成説明

気候変動質問書、簡易版概要について

2023年 気候変動		要点
C0 基本情報		企業の情報
C1 ガバナンス		
C2 リスク・機会		
C3 事業戦略		
C4 目標と実績		
C5 排出量算定方法		企業の状況、体制、 戦略や目標などの説明
C6 排出量データ		
C7 排出量詳細		
C8 エネルギー		
C9 追加指標		排出量、エネルギーデータなど データの報告
C10 検証		(灰色は簡易版では対象外)
C11 カーボンプライシング		
C12 エンゲージメント(協働)		取引先等との協働
(C13 C14)		
C15 生物多様性		
C16 署名 (承認)		提出時の承認者

＜評価(スコア)について＞

- ・ 回答の充実 (D)
→問題の認識度合 (C)
→課題の管理・実践 (B)
→先導的な取組 (A)
のレベル毎に採点され、D-～A(8段階)の評価

＜簡易版について＞

- ・ 対象： 年間売上が約330億円（：2.5億ドル）
に満たない企業
回答着手時に簡易版を選ぶことが可能
- ・ 質問数が減少、基礎的な要素に絞られる
(TCFDの要素は少ない)
- ・ 採点あり、評価の仕方は一部完全版と
異なる。最高でもA-評価となる





C0 はじめに（基本情報）

C0.1 貴社の概要と紹介を記入してください。

C0.2 データ報告期間（年）の開始日と最終日を記入してください。

C0.3 貴社が操業する国・地域を選択してください。

C0.4 回答を通じて財務情報として全体に用いる通貨を選択してください。

C0.8 貴社の持つISINコードや、他の固有ID番号がある場合、ご回答ください。

- ・企業情報
 - ・報告年(回答対象年)
 - ・活動の範囲(国レベル)
 - ・企業コード
- などの情報を報告頂く、基本的な章となります。



C1 ガバナンス

▼ 気候変動問題に関する取締役会レベルの監督があるか。
またガバナンス(内部統制)やインセンティブの状況。



C1.1

貴社では、気候関連問題の取締役レベルの監督を行っていますか？

はい



いいえ



C1.1c

気候関連問題の取締役会レベルの監督がないのはなぜですか、そして将来これを変更する計画はありますか？



C1.2

気候関連問題に責任を負う最高位の職位または委員会をお答えください。



C1.3

気候関連問題の管理に対して、目標達成に対するものを含めて、インセンティブを提供していますか。

設問例：

(選択式)

(C1.2) 気候関連問題に責任を負う最高レベルの職位または委員会をお答えください。

: 職位/委員会、責任対象(リスク・機会)、取締役会への報告頻度 <各選択>
責任者を置き、リスク・機会を評価・管理し、定期的(頻繁)に報告しているか。



C2 リスクと機会

気候変動問題に関するリスク、機会の管理等を行うプロセス。
またリスク、機会の詳細。



C2.1

気候関連リスクや機会を特定・評価し、それに対応するプロセスをお持ちですか。

はい

いいえ

C2.2g

上記(C2.1)プロセスを持たない理由はなぜですか、そして将来これを導入する予定はありますか？

C2.3
C2.4

貴社の事業に大きな財務的または戦略的影響をあたえる可能性のある
気候関連リスク(/機会)を特定しましたか？

はい

いいえ

C2.3a
C2.4a

貴社の事業に大きな財務的または戦略的影響を
与える可能性のあるリスク(/機会)の詳細を
教えてください。

C2.3b
C2.4b

貴社では当該リスク(/機会)がないと考える
理由を教えてください。

：リスク・機会の項目ごとに、具体的説明、財務的な影響額、
対応の手立て、対応費用の選択・記述による回答

用語説明：リスク

ここでは法規制への対応、災害や変化への対処、その
他事業活動に対し起こりうる悪影響を指す

C3 事業戦略

C3.1

貴社の戦略として、1.5℃の世界*に適合した移行計画をお持ちですか。

：移行計画についてYes, Noその他の選択式の回答、および株主との意見交換などあるかについての説明

用語説明：1.5℃の世界

パリ協定に由来し、地球温暖化による気温上昇を平均1.5℃以内に抑えるべく
企業～国レベルで取り組む方向性に基づく、将来の世界像

将来的なシナリオ分析や低炭素移行経済への計画、また具体的な事業戦略及び財務計画を求める章。
(簡易版においては上記C3.1の設問のみになります)



C4 目標と実績

▼ 排出量の削減目標及びその取組みの状況報告など。



C4.1

報告年における排出目標がありましたか？

あり

なし

C4.1a
/4.1b

総量目標/原単位目標の詳細と、目標の達成度合いについて詳細を教えてください。

C4.1c

目標の無い理由や、今後5年の排出量の見通しについて教えてください。

C4.2

報告年におけるその他の気候関連目標はありましたか？

適
宜
回
答

C4.2a

低炭素エネルギーの消費/生産の目標についてご説明ください。

C4.2b

他の気候関連の目標についてご説明ください。（メタン削減等）

C4.2c

ネットゼロ目標についてご説明ください。

C4.3

報告年における排出削減イニシアチブ(取組)がありましたか？

はい

いいえ

C4.3b

イニシアチブの詳細を教えてください。

C4.3d

イニシアチブの無い理由を教えてください。

C4 設問内用語について

- ・ **総量目標**

自社活動における温室効果ガス(GHG)排出の全体量を低減させる目標

- ・ **原単位目標**

自社の活動量当たりのGHG排出量を低減/維持させる目標

- ・ **低炭素エネルギー**

再生可能エネルギーなど、化石燃料由来のGHG排出がゼロもしくは非常に低いエネルギー

- ・ **ネットゼロ目標**

GHGあるいは二酸化炭素の排出量を、実質ゼロにする目標。自社排出を可能な限り低減し、残った量については森林吸収や他の方法で除去することで達成することを目指す。パリ協定やSBTに関連。

(参考)

- ・ **パリ協定**

気候変動問題に対処し、世界の平均気温の上昇を産業革命前と比べ1.5度に抑えるという国際的な合意

- ・ **SBT** (Science Based Targets, 科学に基づく目標)

温暖化抑止、パリ協定の目標達成に向けた、科学的知見に整合したGHG削減目標で、組織単位で設定

- ・ **FLAG SBT**

原料段階を含む、土地利用や農業に関連するGHG排出を対象とするSBT



C5 排出量算定方法

▼ 基準年の排出量（スコープ1, 2, 3）の報告、算定の方法論など。



C5.1

今回は、CDPに排出量を回答する初めての年ですか。

C5.2

貴社の**基準年***とその排出量を教えてください。

***基準年**：目標とする年に対する排出量等の出発点・比較対象となる年

C5.3

データ収集、排出量の計算に用いた基準や指針、手法について選択してください。

：地球温暖化対策推進法（：温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度）、GHGプロトコル企業基準、などの温室効果ガス算定のためのルールや基準について、選択

温室効果ガス(GHG)排出量の種類：

スコープ1：燃料の燃焼、化学反応等による直接の排出

スコープ2：外部から得たエネルギー使用時の供給元における排出（主に電力）

スコープ3：自社の活動の周囲・前後段階における**外部の活動による排出**

} エネルギー量等を
CO2排出量に換算



C6 GHG排出量

▼ スコープ1, 2, 3排出量及び原単位等の報告



- C6.1 貴社の全世界の**スコープ1**の総排出量を回答ください。
- C6.2 貴社の**スコープ2**排出量の**算定基準**をご回答ください。
- C6.3 貴社の全世界の**スコープ2**の総排出量を回答ください。
- C6.5 貴社の全世界の**スコープ3** 排出量、除外について説明をしてください。

スコープごとにCO2トン単位で排出量を回答。
スコープ2では、**ロケーション・マーケット基準**の2種類の報告方法があり、スコープ3には、**15種類のカテゴリ**がある。

スコープ1, 2, 3のイメージ



算定イメージ

報告対象とする組織全体の活動を把握し、CO2排出量にて算定します

スコープ1



◆ 燃料の燃焼

- ・ 自社内のボイラー、燃焼設備等の燃料の納品書等、伝票類

スコープ2



◆ 外部から得たエネルギーの使用

- ・ 各月の電力量通知や請求書
+ 排出係数のデータ(ロケーション/マーケット)

⇒ 各種使用量を伝票など根拠資料から把握して、CO2排出量に換算する

スコープ3

◆ カテゴリ（分類）ごとの算定の考え方に基づく計算での算出

算定方法の例

- ・ 購入・自社活動関係：活動量(購入量、廃棄量等) × 排出原単位
- ・ 輸送関係：輸送量 × 距離 × 排出原単位 など
- ・ 製品関係：使用時間 × 時間当たり消費エネルギー量 × CO2換算係数

排出原単位=単位活動量当たり
CO2排出量を係数化したもの

... グリーン・バリューチェーンプラットフォーム などスコープ3についての説明資料参照
[：環境省・経済産業省]

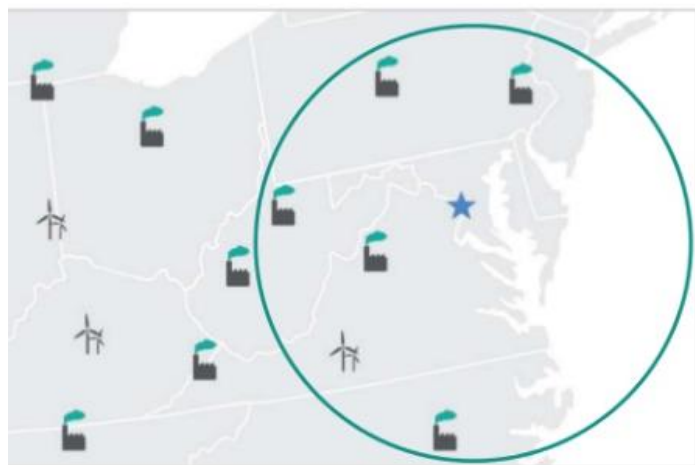


スコープ2、スコープ3の種類について

スコープ2の2つの算定基準

ロケーション基準

その国(／地域)で通常規定される平均的な排出係数を使ってCO₂排出量を計上する方法（一般的に、公表される共通の排出係数を使用）



マーケット基準

自社組織(拠点)の購入した電力や熱について、契約や会社の選択における排出係数を把握し、その係数に基づきCO₂排出量を計上する方法

スコープ3の種類

商流	No.	カテゴリ
上流	1	購入した製品・サービス
	2	資本財
	3	燃料及びエネルギー関連活動 (Scope 1, 2を除く)
	4	上流の物流
上流 (自社 周囲)	5	事業から出る廃棄物
	6	出張
	7	雇用者の通勤
	8	上流のリース資産
下流	9	下流の物流
	10	販売した製品の加工
	11	販売した製品の使用
	12	販売した製品の廃棄
下流 (投資等)	13	下流のリース資産
	14	フランチャイズ
	15	投資



スコープ1計算の基本

- 消費量×排出係数
(tCO₂換算)*

(*単位発熱量
× 排出係数(tC換算)
× 44 / 12)

軽油 100,000L使用



⇒ 100(kL) × 2.58 (tCO₂/kL)
= 258 トン-CO₂

※CO₂以外のGHGの場合：

排出量 × 地球温暖化係数
(CO₂への換算係数)

※温対法算定報告の排出係数一覧

区分	単位	値
原料炭	tCO ₂ /t	2.61
一般炭	tCO ₂ /t	2.33
無煙炭	tCO ₂ /t	2.52
コークス	tCO ₂ /t	3.17
石油コークス	tCO ₂ /t	2.78
コールタール	tCO ₂ /t	2.86
石油アスファルト	tCO ₂ /t	3.12
コンデンセート(NGL)	tCO ₂ /kl	2.38
原油(コンデンセート(NGL)を除く。)	tCO ₂ /kl	2.62
ガソリン	tCO ₂ /kl	2.32
ナフサ	tCO ₂ /kl	2.24
ジェット燃料油	tCO ₂ /kl	2.46
灯油	tCO ₂ /kl	2.49
軽油	tCO ₂ /kl	2.58
A重油	tCO ₂ /kl	2.71
B・C重油	tCO ₂ /kl	3.00
液化石油ガス(LPG)	tCO ₂ /t	3.00
石油系炭化水素ガス	tCO ₂ /1,000Nm ³	2.34
液化天然ガス(LNG)	tCO ₂ /t	2.70
天然ガス(液化天然ガス(LNG)を除く。)	tCO ₂ /1,000Nm ³	2.22
コークス炉ガス	tCO ₂ /1,000Nm ³	0.85
高炉ガス	tCO ₂ /1,000Nm ³	0.33
転炉ガス	tCO ₂ /1,000Nm ³	1.18
都市ガス	tCO ₂ /1,000Nm ³	2.23



スコープ2計算の基本（ロケーション基準）

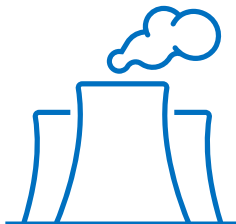
消費量(kWh) × **全国平均排出係数0.000435(tCO₂/kWh)**

※ 年度ごと最新の係数が環境省より公表

（2022年度分報告としては、2021年度実績(最新)の値を使用する）

年間2,000,000kWhの電力使用量だった場合、

$$2,000,000kWh \times 0.000435 \text{ トンCO}_2/kWh = \underline{\underline{870 \text{ トン-CO}_2}}$$



C6(続き), C7 排出量内訳

C6.10

貴社の全世界のスコープ1+2の総排出量から年間売上額当たり、
あるいは追加で他の事業指標における原単位に換算し、ご提供ください。

：スコープ1, 2合計排出量 ÷ 自社年間売上金額 = **売上額(円)あたり排出原単位** を算出
(加えて、生産量当たり排出原単位など、自社で指標としているものも回答可能)

C7.9

報告年における総排出量 (スコープ1+2)は、
前年と比較してどのように変化しましたか？

(簡易版においては
C7はC7.9の設問のみ
になります)

(選択肢)

- 増加した
- 減少した
- 全体的に同等である
- 算定報告初年度のため、比較できない
- 排出量データがない



C8 エネルギー

再生可能エネルギーの導入状況を含むエネルギー消費量
についての報告



C8.2

貴社がエネルギー関連のどの活動を行ったか選択してください。

燃料, 電力, 熱の消費などの各エネルギーにおいて、その有無を選択。

C8.2a

貴社の各エネルギー消費量合計値(原材料を除く)を報告してください。

C8.2回答に基づき、各エネルギーを仕事率の単位であるMWh(メガワット時)に換算して報告。
* 1GJ (ギガジュール) =0.277778 MWh

C8.2a
回答表

事業活動	発熱量	再生可能エネルギー源からのエネルギー量(単位 : MWh)	非再生可能エネルギー源からのエネルギー量(単位 : MWh)	総エネルギー量(再生可能+非再生可能) MWh
燃料の消費(原材料を除く)	選択肢: - LHV (低位発熱量) - HHV (高位発熱量) - 発熱量の確認不能	数値記入欄[最大小数点第2位を用いて、コンマなしで0～9,999,999,999の数字を入力]	数値記入欄[最大小数点第2位を用いて、コンマなしで0～9,999,999,999の数字を入力]	数値記入欄[最大小数点第2位を用いて、コンマなしで0～9,999,999,999の数字を入力]
購入または取得した電力の消費	適用外			
購入または取得した熱の消費	適用外			
購入または取得した蒸気の消費	適用外			
購入または取得した冷熱の消費	適用外			
自家生成非燃料再生可能エネルギーの消費	適用外		適用外	
合計エネルギー消費量	適用外			



C10 検証

▼ 排出量データの第三者検証の実施有無について



(C10.1) 報告した排出量に対する検証/保証の状況を回答してください。

簡易版について
新しい質問

検証（保証）：報告されたデータの正確性や算定手順などの適切性について、第三者が確認し、信頼性に問題がないとしているかの手続き

スコープ	検証/保証状況
スコープ1	選択肢: • 排出量データ未提出 • 第三者検証または保証なし • 第三者検証または保証を実施
スコープ2(ロケーション基準またはマーケット基準)	選択肢: • 排出量データ未提出 • 第三者検証/保証なし • 第三者検証/保証を実施中
スコープ3	選択肢: • 排出量データ未提出 • 第三者検証/保証なし • 第三者検証/保証を実施中



C12 エンゲージメント C16 最終承認

- ▼取引先等との協働、働きかけ
- ▼回答提出における承認者



C12.1

気候関連事項について、上流・下流の関係者（バリューチェーン）との協働（エンゲージメント）をしていますか？

（選択肢）

- はい、サプライヤーと
- はい、消費者/顧客と
- はい、バリューチェーンの他のパートナーと
- いいえ、関与しません

C12.2

貴社のサプライヤーに対し、取引プロセスとして気候関連の要件を求めますか。

（はい、いいえ等の選択式）

C16.1

貴社のCDP気候変動の回答に対して署名(承認)した人物の詳細を記入してください。

貴社内における役職名称を記載。また社長、取締役会、CEO、最高〇〇責任者(CxO)、など所定の選択肢から選択

※ 個人名は不要なので入力しないでください。



(簡易版では対象外となる章)

C9 その他の指標

C11 カーボンプライシング

簡易版では省略されます。

C13、C14

特定業種（農業・食品等・林業製紙業／金融セクター向けの質問）向けで、簡易版では省略、多くの一般企業にて対象外。

C15 生物多様性

生物多様性への取組等についての質問





CDP Worldwide-Japan

Address: 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル3階



<https://japan.cdp.net/>（日本語サイト）



Contact email address:

japan@cdp.net

一般的なお問い合わせ

質問書に関してのお問い合わせは
ログイン後以下のリンクから願いたします。
<https://help.cdp.net/ja-JP/open-new-case/>



本資料の内容、CDPウェブサイトに記載している日本語版の内容は、CDP日本事務局が日本企業の皆様向けに日本語での説明を行うために作成したものです。最新の情報を反映しきれていない可能性もありますので、正しくは英語版をご参照ください。